

- 1 主題名 おもいきって 1－(3) 勇気
- 2 資料名 ピンクいろの花 (「2年の道徳」 文溪堂)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

指導内容1－(3)は、「よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行う。」ことを主な内容としている。

人としてやってよいことと悪いこと、社会通念上してはならないこと等をしっかりと区別したり、判断したりすることは難しい面もあるが、必要とされる力である。そして、よいことと悪いことを区別し、よいと思ったり正しいと判断したりしたことを実行に移すには、しばしば勇気を必要とすることがある。この勇気は、価値観が多様化した社会を主体的に生きる上で、大切な要素と考える。どんな状況においても、よいことと悪いことの区別ができ、よいと判断したことを進んで行うことができるように指導していくことが大切であろう。

ここで扱う勇気は、蛮勇ではなく、「よいと思う」ことを実現する勇気である。周りの友達に左右されるのではなく、自分の思いをきちんと伝え行動できることの大切さを実感させ、よいと思うことを進んで行おうとする心情を育てたい。

(2) 児童の実態 (28人)

この時期の児童は、よいことと悪いことの区別はできるが、友達に誘われると深く考えず、同一行動をとってしまったり、教師や親の顔色を見て判断したりすることが多い。休み時間が終わるとき、チャイムの音とともに教室に戻ろうとするが、他にまだ遊んでいる友達を見つけると、戻りかけていた足を止め、再び遊具で遊ぼうとする姿を見ることもある。また、朝の自習の時間も、教師が席を外すと、初めは様子をうかがっているが次第に出歩いて遊ぼうとする姿も見られる。また、級友をからかうような場面に出くわしたとき、一緒になってからかってしまう児童もいた。「よいと思うこと」を進んで行う勇気を身に付けさせることにより、善悪の判断はもちろん、より自分らしく生きたいという心情を育てたい。

(3) 資料について

本資料は、三つの場面で構成されている。にゃんたがピンクいろの花の絵をからかわれる場面。にゃんたの絵をすてきだとほめてくれた犬のわんじろうの登場する場面。わんじろうの言葉に勇気を得て、にゃんたが自分の思いを話す場面である。これらの三つの場面における次のようににゃんたの気持ちを考えさせたい。

- ① ピンクいろの花の絵をからかわれ、下を向いて黙ってしまったにゃんたの気持ち。
- ② わんじろうが自分の思いを堂々と話しているのを聞いたにゃんたの気持ち。
- ③ ピンクいろの花が大好きだと言えたにゃんたの気持ち。

児童は、にゃんたと似たような経験をしていると考えられる。特に第一の場面に似た経験している児童は多いだろう。その場面で、友達にからかわれたにゃんたの心情のゆれに共感することで、勇気を出すことの困難さ、出せないことの悔しさを味わうことができると考える。その思いが、にゃんたが別の友達の言葉に勇気付けられ、自分のよいと思うことを言えたすがすがしさを感じ、よいと思うことを進んで行おうとする心情を育むことにつながると思う。

(4) 他教科・他領域や日常指導などとの関連

日常の指導では、清掃や休み時間など、様々な場面で児童の勇気ある行動を感じ取ったら、具体的に賞賛することで、勇気のすばらしさを児童に広げていきたい。

また、教科での指導では、ノート作りや音読の仕方など自分がよいと思った工夫を取り入れている児童がいたら賞賛し、自分がよりよいと思うことを進んで行おうとする心情を育てたい。そのために、よりよいと判断したことに進んで取り組む姿勢を肯定的に受け止められる雰囲気作りや、互いの勇気を認め合い、高め合っていく場の設定を工夫する必要があると考える。

4 本時の学習

(1) ねらい

よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行おうとする心情を育てる。

(2) 展開

学習活動と主な発問	予想される児童の反応	指導上の留意点と評価※ 研究主題達成のための手立て☆
<p>1 勇気に関わる詩を読む。</p> <p>2 資料「ピンクいろの花」を読んで話し合う。</p> <p>○ こんすけともうきちにからかわれたとき、にゃんたはどんな気持ちになったか。</p> <p>◎ なぜ悔しくて下を向いて黙ったのか、にゃんたはどんなことを考えたか。</p> <p>○ 「すてきにかけているじゃないか。…」とわんじろうに声を掛けられたとき、にゃんたはどんな気持ちになったか。</p> <p>○ 「ぼく、ピンクいろの花がすきなんだ。…」と言ったとき、にゃんたはどんな気持ちになったか。</p> <p>3 今までの自分の生活を振り返り、話し合う。</p> <p>○ よいことと悪いことを考えて、勇気をもって、言ったり断ったりしたことはあるか。</p> <p>4 教師の説話を聞く。</p>	<p>・ はずかしい。嫌だ。</p> <p>・ ピンクが好きだから描いただけなのに。いけないことなのかな。</p> <p>・ 放っておいてほしい。</p> <p>・ 「好きだから描いたんだ。何が悪いんだ。」って、堂々と言おう。</p> <p>・ 悔しいけどもつと言われたら嫌だから、黙っていよう。</p> <p>・ 嫌だけど、どうしたらいいか分からない。</p> <p>・ うれしい。すっきりした。</p> <p>・ ぼくも勇気を出そうかな。本当の気持ちを言ってもいいのかな。</p> <p>・ 本当の気持ちを言いたいな。</p> <p>・ わんじろうくんはすごいな。ぼくには無理かも。</p> <p>・ 言いたいことが言えたぞ。</p> <p>・ やったあ。いい気持ちだなあ。</p> <p>・ 思い切って言ってみてよかった。</p> <p>・ 言えないと思ったけど、言ってみたら簡単だった。</p> <p>・ いじわるをしている友達に「だめだよ。」って言えた。</p> <p>・ いたずらしている友達に「一緒にやろうよ。」と誘われたが断った。</p> <p>・ 掃除を怠けている友達に注意した。</p> <p>・ いじわるをされたとき「嫌だ。」と言うことができた。</p>	<p>○ 詩を読み、温かな雰囲気の中でねらいとする価値の方向付けをする。</p> <p>○ 教師が前半を範読する。</p> <p>○ 意図的指名で役割演技を行い、にゃんたの気持ちに共感できるようにする。自分の気持ちを主張できず迷うにゃんたの心情に共感させ、ねらいとする多様な価値観を引き出す。</p> <p>○ にゃんたの気持ちに共感した意見が出ないときには、自分の経験を振り返るようにしてねらいとする多様な価値観を引き出す。</p> <p>○ 教師が後半を範読する。</p> <p>○ 「ゆうき」という言葉を押さえ、必要なときは教えるようにする。</p> <p>○ わんじろうくんが、自分の思いを堂々と話す姿を見たにゃんたの気持ちを想像させる。</p> <p>○ 勇気を出すことの困難さ、出せないことの悔しさが、勇気を出せたにゃんたのすがすがしい気持ちにつながっていることに気付かせ、ねらいとする価値に迫りたい。</p> <p>○ 勇気を出して自分の正しいと思うことを話すことができると、すがすがしい心情になることに気付かせ、自己を振り返らせたい。</p> <p>※ 自分の経験を振り返って、よいと思うことを進んで行おうとする意欲を高めることができたか。</p> <p>☆ 互いの経験を聞き合うことで、勇気の価値について何が分かったのかを自分自身で確認する。</p>